

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171100177		
法人名	株式会社ライフサポートNEO		
事業所名	グループホームきぼう神埼センター		
所在地	佐賀県神埼市神埼町鶴1342番地1		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成31年2月12日	外部評価確定日	令和元年6月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>昨年同様、会社が取り組みを掲げているスリー宣言を持続し、取り組んでいます。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1、入社、退社時に全利用者様・全職員と挨拶、握手運動</li><li>2、1日中、車椅子での生活をしない、脱車椅子作戦。</li><li>3、認知症改善・予防プログラムの実施宣言。</li></ol> <p>1は、ほぼ定着は出来ています。入居者様の状態を見ながら(不穏状態で帰宅要求がある時)実施をしています。</p> <p>2は、車椅子の方は、声かけを行いながら、ソファなどに座って頂いています。</p> <p>3は、レクリエーションの内容によって参加されない方もおられ、定期的にお声かけを行ったり、スタッフ付き添い、参加をして頂いています。昔話なども行い、認知症の進行を緩和に出来ればと努力しております。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>「きぼう神埼センター」は、近くに小学校、吉野ヶ里公園や紅葉の名所があり、窓から見える山里の風景は、利用者にかつての思い出を呼び覚ましてくれる。また、隣の小規模多機能の施設とは、利用者同士の交流も期待できる。「質の高い介護事業を通じて、地域の皆様に安全と快適な生活を提供し、幸せを実現します」を運営理念とし、「利用者の身になって、利用者の言葉に耳を傾け、利用者と共に歩む」事を目標としている。支援にあたっては、「利用者ができることは、そっと見守る。できない事は、手伝わせていただく」ことを基本にして、利用者第一の様々な工夫をしている。また、職員は「プロ意識」をもった支援で、利用者一人ひとりと信頼関係が結ばれている。</p> <p>一日の流れはゆっくりで、その中で利用者の状況にあわせた食事・排泄・入浴・着替え等の支援、健康管理、レクリエーション、散歩、買い物、ドライブなどが行われている。利用者は、明るく静かで、室温・湿度が快適に保たれているリビングで日中を過ごす方が多い。トイレや居室への移動は車椅子でなく、手引き介助で運動身体機能の維持に努めている。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1回の調整会議や、朝の朝礼時にスタッフ全員で斉唱し、地域密着型サービスの理解を得るようにしている。	地域との関わりを重視した法人理念を踏まえて、事業所独自に「施設目標」を設けて、支援の基盤にしている。定例の会議や毎日の朝礼時に唱和することによって、ごく自然に理念を意識した支援になっている。管理者の具体的な指導や助言もあり、理念の共有や実践に結び付いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校へ手作りの日用品(雑巾)をプレゼントしたり、地域の行事参加も行っている。	地域の自治会にも加入し、地域の一員でもありたいと願っている。回覧板や地域住民からの情報も届いている。地域行事の一つであるしめ縄づくりにも参加している。利用者の手縫いの雑巾を小学校に贈り、喜ばれており、「学校便り」で校区民に紹介もあっている。また、地域の高校との交流もある。地域から敬老会の案内も届いているが、家族やボランティア団体の協力を得て、事業所内での敬老会を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への行事参加を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回の運営推進会議の開催を行い、苑での行事報告や意見交換などを行っている。	年6回の開催で、各1時間程度の会議であるが有意義な会議になっている。行事の際の利用者の様子、ヒヤリハット、課題など具体的に報告が行われている。また、感染症対策、大雨の際の状況に合わせた避難場所の変更、遠出の時の家族やボランティアの協力など、運営に活かせる意見交換が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の研修会の参加や、避難訓練などを行っている。	行政とは、主に運営推進会議での機会を通じての連携が多い。また、神崎市高齢者見守りネットワークの協力事業所になったり、行政主催のケアネット神崎の研修会や会議に参加する、ホームページでの発信など、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、身体拘束の意味などを理解するように努めている。	これまで身体拘束の事例はない。契約にあたっては利用者や家族に具体的に説明して身体拘束のないケアについての理解を得ている。脱車椅子作戦を実践している。玄関は無施錠で自由に出入りができる。外出する利用者には職員と一緒にあって見守っている。接遇の勉強会で、心の拘束になる言葉かけも無いように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、虐待の捉え方などを理解するように事例をあげ、虐待がないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などには参加をしているが、現在該当する事例はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約や解約についての説明を行い、疑問点などがないかお尋ねを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、運営推進会議、行事参加時など、必ずお声をかけて頂き、時間をかけてお話をさせて頂くようにしている。	面会時に笑顔で何でも相談しやすい環境づくりに努めている。また、事業所独自に家族アンケートを半年ごとに実施したり、請求書と共に担当者からの利用者の暮らしぶりを知らせる手紙を同封したり、毎月苑だよりを発行するなど、利用者や家族と事業者が一体感をもって過ごせる工夫をしている。ご意見箱を設置したり、相談窓口もお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、全スタッフと面談を行い、意見や提案などを聞き、運営に反映している。	遠慮なく意見や相談ができる職員関係である。恒例の初詣場所の変更にあたって距離やスロープ、トイレを確認したり、苑だよりに写真を多くしてより具体的に暮らしの様子ができる工夫をしている。また、資格取得にあたって支援制度を取り入れるなど、普段の話し合いや調整会議結果から運営に反映された一例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談の際に自己評価をしてもらい、目標達成に向けてアドバイスをを行うようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の参加や、スキルアップ支援制度の導入。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神崎市で行われているケアネット神崎に出席を行う事で介護事業者同士の意見の交換や勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご家族様及びご本人様との面談を行い、お話をお伺いしながら関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み書を書いて頂く時に、現在のお困り事や不安、要望などをお伺いするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時にいろいろなサービスがある事を必要に応じてお話させて頂き、他施設への見学も進めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日レクリエーションを一緒に行ったりしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、施設内での生活状況をご家族様にお伝えしたり、月に1回の請求書送付時にサンキューレターも一緒に送付するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を設けず、面会者がいつでも来て頂けるように心がけている。知人の方が見えられた時は自室で談話して頂くように声かけを行い自室で過ごして頂くようにしている。	隣の小規模多機能事業所からの利用者の訪問や知人の訪問にはお茶を出したり、買い物デーや散歩時に知り合いと出会ったり、馴染みの理美容室に出かける方もある。家族との外出、主に正月や盆、彼岸に一時帰宅や外泊の支援もしている。季節感がある紅葉やひまわり見学、道の駅までのドライブなどは、利用者の楽しみになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	午前、午後のおやつ後はレクリエーションを実施、他入居者様と一緒に童謡を歌われたり、ボール投げ、体操などを行われる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されている方へのお見舞いや、ご家族様へ状況確認のお電話を行なっている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の面談時のご要望や、入居後の日常の会話などからご本人本位の支援を行うようにしている。	思いや意向についてはふだんの生活の中で把握に努めている。入浴、食事、レクを含めた日常の支援の中で、会話、つぶやき、表情、行動などからも利用者の気持ちや心の変化、意向を察することも多い。そこで得た情報は申し送りノートに記載したり、ミーティング等で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から聞き取りを行い把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察し、記録に残し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様のご意見やご要望をお伺いしながら、スタッフの意見なども聞きながら作成している。	利用者や家族の暮らしに対する意向を大事にしながら、職員調整会議での意見を基にして計画が作成されている。計画は、あくまでも利用者本位で、具体的な実行可能な支援内容である。長期・短期目標のモニタリングを日々行い、3ヶ月ごとの計画を作成している。利用者の状況変化に伴って随時に計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録や、月間報告書、申し送りなどで状態の把握を行い、必要に応じた介護計画書の見直しの検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様のご家族にサービスの情報を提供し、いろいろなサービスがある事を理解して頂くようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域などへの参加は出来るだけ参加するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までかかりつけておられた病院への受診を行っている。	利用者や家族の意向にそった医療機関の利用を支援している。協力医療機関とは何時でも受診や相談ができる関係にある。主治医の定期的な訪問診察は毎月1回、看護師の訪問は週2回である。歯科は月に1回の受診である。受診の際は家族に相談し、家族が不都合な場合は、職員で付き添いの支援をしている。受診結果は、職員も共通理解し支援に活かしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師や、週に1回来られている訪看や、スタッフの気づきなどを総合してご家族に連絡し、受診などの相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族様との連絡を行い、面会時の状況をお互いに理解しながら退院に向けての意見交換を行っている。又、Drへ状況を確認しながら自施設での受け入れが可能か検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化された場合やターミナルの件についての説明を行っている。	「重度化した場合及び看取り介護における対応に関する指針」も準備されており、契約時にきちんと説明し、納得をもらっている。利用者の状態によって、救急車を呼んだ事はあるが、これまでに看取り介護の事例はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に1回の調整会議はスタッフ全員参加で行っており、勉強会を実施し、急変や緊急時の対応が出来るように指導している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議時に避難場所の確認や、避難訓練の実施を行っている。	年に2回、昼間と夜間の火災を想定した避難訓練を消防署の立ち会い無しで実施している。自動通報装置、避難経路や避難場所、職員の連絡体制はきちんと整えられている。避難場所もその状況に応じて、柔軟に対応しているが、消防団や地域住民との協力との関わりが十分とはいえない。昨年の大雨の際は、水害も予想して、行政からの指示を待たずに早めに避難をしている。	災害対策には、火災だけでなく、地震・水害・台風等の自然災害も考えられる。これまで以上に地域との協力体制の在り方についての再検討を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社全体の研修や、施設での調整会議時に接遇や介護従事者の心得などの勉強会を実施している。	「尊厳の尊重」を支援のキーワードにしている。日々の関わりの中で人生の先輩として尊敬し、誇りを損ねない対応をしている。運営規程に守秘義務が謳われており、情報提供に関する同意書ももらっている。居室には名前札をつけないなど、個人情報にも十分に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望をお伺いし、支援出来るものは出来る限り支援させて頂いている。例えば、入浴の順番など。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のご要望をお伺いし、入居者様のペースに合わせた対応をさせて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様やご家族様のご要望をお伺いし、カットやカラーなど訪問理美容を活用しながら対応させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きなどをお手伝い程度にお願いをしている。又、食事の際に固さや味つけなどのお話をしながら食事をして頂いている。	職員は食事介助をしたり、利用者をそれとなく見守り、声かけをしながらの支援である。副食は真空パックされたものを湯煎で戻したり、揚げた献立を提供している。ご飯と汁ものは台所で炊いたり、調理して提供している。「おかわり」の声には、健康状態に合わせて納得してもらっている。たこ焼きなど手づくりのおやつ作りで、利用者が希望する食べたい物を一緒に作っている。	薄味で高齢者向けのおいしい食事であるが、三日分毎に届く真空パックの副食には、利用者の嗜好などが献立に反映されにくいことも考えられる。真空パック食材の利点を活かしながらも、献立に利用者や家族の意向が反映される面がないかの、再検討を期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認や、水分量の確認を行い、必要に応じてかかりつけ医への相談を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の状態に応じた口腔ケアの支援をさせて頂き、必要に応じて口腔内の確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中は苑トイレを使用して頂き、時間を確認しながらご案内のお声かけを行い、必要に応じて見守りや支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣が、チェック表や細かい観察等によって把握され、その方に合った支援である。手引きによるトイレ誘導や自立の方の見守り支援も見られた。昼間はトイレに誘導し、パット使用の方にも昼間用と夜間用を使い分けるなど、自立に向けた支援である。もし、失敗があっても羞恥心に十分な配慮をした対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取を行って頂いたり、レクリエーション時に身体を動かして頂くようにお声かけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様に入浴の希望をお伺いし、入って頂くようにしている。入浴の拒否がある方には声かけのタイミングを見ながら入って頂くようにしている。日曜、祝日関係なく、1年365日入浴支援を行っている。	2日に1回、午前中の入浴を基本としているが、希望する利用者は毎日でも入浴ができる。入浴順や時間などは柔軟に対応し、ゆっくりと入浴してもらっている。マンツーマンでの介助だが、利用者の状況に応じて二人での支援を行っている。苜蒲湯や柚子湯、入浴剤で、気持ち良い入浴ができるような工夫もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態を見て自室休養をされたり、ホールで過ごされたりされている。夜間帯も状態を見て休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が受診された場合は受診報告書を記載し、スタッフ全員が内容を確認するようにしている。会議時に必要な事項は説明を行い、理解するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や趣味をお伺いし、支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お声かけし、気分転換にスタッフ付き添いで散歩に出られたり、苑行事を計画し、全員で外出して頂けるように計画実行している。	季節や天候を見ながら、ホームの周辺や敷地内の散歩コースを歩いたり、外気浴を楽しんだりしている。毎週買い物デーを設け、希望する方と一緒に買い物にも出かけている。初詣、こいのぼり見学、紅葉狩り、花見など利用者が楽しめる行事を計画し、出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金などはなく、お金の支払いなど、お金を触る機会があまりない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様のご要望があれば電話や手紙を書いて頂くように支援させて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅の茶の間と同じような空間になればと考えるながら支援させて頂いている。ホールのソファでゆっくり過ごされる方が多い。	リビングでゆっくりと過ごせるように、ソファやテーブルが工夫して置かれている。静かで雑音もなく、昼間はここで過ごす方がほとんどである。職員も話を交わしたり、その時の状況に合わせた支援を行っている。加湿器も置かれ、冬場は特に湿度管理にも留意している。対面式のキッチン、手すり、季節感がある飾り物など、いろいろな工夫が見受けられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブルと椅子のほかにソファを置き、入居者様がゆっくりされるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室で過ごされる事が少ない為か、自室に本人様が使い慣れた物などの持ち込みが少ない。	使い慣れた物や好みのものの持ち込みに特別に制限は無く、時計、テレビ、家族との写真、好みの服、趣味の書道作品、整理ダンス、その他など見受けられた。持ち込みが少ない利用者には、職員が誕生メッセージ、自作作品、写真を飾るなど、家族とも相談しながら、その方が落ち着いて過ごせる居室環境の手伝いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーや手すりを使用しながら自力歩行に向けた支援を行っている。		

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
		○	3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない